

皆さん、新年明けましておめでとうございます。新しい年 2020 年がスタートしました。皆さんはどんなお正月を迎えましたか。

今年は雪が少なく穏やかなお正月で、やっぱり地球温暖化の影響かもしれません。

さて、2020 年はどんな年になるのでしょうか？

やっぱり、2020 年といえば、東京オリンピック・パラリンピックですね。3 月には聖火リレーが始まり、羽田国際線が増便され、約 50 年ぶりとなる JR 山手線新駅「高輪(たかなわ)ゲートウェイ駅」が開業を迎えます。さらに各地で再開発が進められており、ホテルや商業施設も開業ラッシュ。株価も上がると予想されています。

また、私たちの暮らしを変える新技術が相次いで登場します。たとえば、次世代通信規格 5G(ファイブジー)サービス開始やそれと相乗効果で一段と進歩するだろう AI(人工知能)によって、自動車の自動運転が加速するといわれています。ディズニーランドやユニバーサルスタジオには新施設が登場し、オリンピックとともに訪日外国人も増えて経済は盛り上がりそうです。

そんな期待とは裏腹に目に留まった番組と記事がありました。

1 月 5 日の「サンデーモーニング」の特集「幸せになれない時代？」で「分断」と「格差」が深刻化していることをとりあげていました。一つ紹介しますと、

世界の長者番付が毎年発表されますが、2019 年のランキングを見ると、1 位は アマゾン 創業者のジェフ・ベゾスで、資産額は 1310 億ドル(約 14 兆 5400 億円)、2 位はマイクロソフト創業者のビル・ゲイツで、資産額は 965 億ドル(約 10 兆 7100 億円)、3 位は著名な投資家ウォーレン・バフェットでした。みんなアメリカで、上位には GAFA(グーグル・アマゾン・フェイスブック・アップル)に代表される IT 関連事業者が数多く名を連ねて(つらねて)いました。日本では最高が 41 位 ユニクロの柳井 正さん(2 兆 4420 億円)、43 位 ソフトバンクの孫 正義さん(2 兆 3760 億円)です。

このランキングの上位 26 人の資産の合計は 150 兆円になり、世界人口の半分にあたる下位約 38 億人の資産の総和に等しいそうです。26 人で 38 億人分、これだけ富(財産)の格差があるというのは驚きです。

現実に一部の富裕層がいることはともかくとして、誰もが幸せになれない時代でいい訳はないと思います。特に若者があきらめてしまう時代であってはならない。

1 月 5 日付の朝日新聞に「「おかしい」と声上げた高校生 政治は変わった」というコラムがありました。当時の柴山昌彦文科大臣が英語の民間試験について「サイレントマジョリティは賛成です」とツイートしました。「サイレントマジョリティとはものを言わない静かな大衆のこと」。その時、反対の意思表示を柴山大臣に返信した東京都内の私立高校 2 年生の話です。彼は好きな樺坂 46 のサイレントマジョリティの曲の「声をあげない者たちは賛成している」「NO!と言いなよ！」

この歌詞にあるように声をあげ反対の行動を行い、その言葉が国会で高校生の声として伝えられました。結局、民間試験見送りも決まったことは皆さんも承知のはずですが、ただ、彼は日本では「少数派」かもしれません。日本財団がこの秋、9か国(インド、インドネシア、韓国、ベトナム、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、日本)の17歳から19歳、計9000人を対象に実施した調査によれば、「自分で国や社会を変えられると思う」の質問に「はい」と答えた人の割合はインドが83.4%で最高であるのに対し、日本は18.3%で最低、「社会課題について積極的に議論している」は中国が87.7%で最高であるのに対し、日本は27.2%で最低でした。サイレントな人たちとサイレントマジョリティを代表しているという政治。果たしてこのままでいいのでしょうか。

「若者たちの声が法に実れば、政治参加が広がり、民主主義が前進する日が来るかもしれない。希望は、未来を担う若者にある。」と結ばれていました。皆さんに「幸せに生きるために」「対話を諦めず 運命を委(ゆだ)ねない 自分事」としてぜひ、考えてほしいと思います。

さて、約2週間後にせまったセンター試験に向けて頑張っている3年生は今まで蓄えた力をここぞとばかり発揮してください。そして、3年生は高校を卒業し、新しい世界に飛び立つ年になります。「♪明日は彼方、理想は高く」羽ばたいてください。

1・2年生はこの3学期が1年間のまとめの学期となります。終わり良ければ総て良しとなるように、内なる力を貯めるとともに自分の進路実現に向けて準備をして、3学期を元気に過ごしてください。

皆さんにとって、幸せな年になりますよう祈念して終わりにします。